

学習内容と到達目標

☞ 旅行の思い出（旅程・感想など）について話すことができるようになる。

指導のポイント

1. INTRODUCTION

第5課の復習。ステップ1での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①で山川さんが「どこで何をしたか」、あるいは「どこへ何をしにいったか」を説明できなかつたり、②と③で質問にすぐに答えられなかった時は、第5課の入念な復習が必要。

2. SPEAKING

絵を見ながら、リーさんの京都（+奈良）旅行について説明させる課題。学習者自身の感想ではないので、ここでは必ずしも過去時制は必要ない（自分自身の感想なら「金閣寺はきれいでした」と言うべきであるが）。ただ、旅程に関しては、それが自分自身の旅行でなくても「新幹線で行きました」や「京都は雨でした」のように過去時制で表現する必要があるので、活用ができていない時は要注意。また、8課でナ形容詞の過去形を学習済みなので、イ形容詞についても（同じ形容詞ということで）「清水寺は大きいでした」と表現してしまう学習者がいるかもしれないが、次の[3. LISTENING]で間違いに気づいてくれればよい。

3. LISTENING

①では話の内容に注意を向けさせ、イラストの中の間違いを指摘させる。その後、②でイ形容詞の過去形の作り方について学習。

4. FOCUS

③は、集中しないとネイティブでも付いていけないので、2度、3度、繰り返し練習する。CDのスピードにどうにか付いていけるようになったら、今度はCDの後を追って文をリピートさせる（最初の練習では意味に注意が向けられていないため）。その後、復習を兼ねて第8課の[4. FOCUS]の②と④をもう一度練習させるのもよい。

5. LISTENING

非過去形とは形の変ったイ形容詞とナ形容詞の過去形を、少し長めの発話の中で聞き取れるかどうかを確認する課題。

6. SPEAKING

[2. SPEAKING]で練習したのとほぼ同じ内容の課題。今度は学習者自身の経験なので、感想を述べる際に過去時制で話せているかどうかをきちんとチェックする。

7. WRITING

[6. SPEAKING]で話したことをそのまま書かせるようにする。

活動例

☞ 11課同様、[6. SPEAKING]と[7. WRITING]自体がこの課の主要な活動なので、この2つの活動にじっくりと時間をかければ十分。